

教員名	松浦 秀治 (MATSU'URA Shuji)
所 属	生活科学部人間・環境科学科
学 位	理学博士 (1982 東京大学)
職 名	教授
URL / E-mail	http://www.eng.ocha.ac.jp/anthropol/index.htm / matsura.shuji@ocha.ac.jp

◆研究キーワード

人類の起源と進化 / 化石骨 / 年代推定 / 日本の旧石器時代人 / ジャワ原人

◆主要業績

総数 (3) 件

- ・ Paleodemography of a medieval population in Japan: Analysis of human skeletal remains from the Yuigahama-minami site. *American Journal of Physical Anthropology*, Vol.131, pp.1-14.
- ・ 親子の生体計測データからみた頭顔部寸法の世代差. *Anthropological Science (Japanese Series)*, Vol. 114, pp. 151-159.
- ・ 日本人の起源と形成. 三愛新書「教養講演集 72 人間と文化」, 三愛会, pp.7-38.

◆研究内容

<主要研究テーマ>

1. 人類の起源と進化：特にその年代論、年代・環境的背景
2. 化石骨の年代測定・判定学
3. ジャワ原人や日本の旧石器時代人類の編年および変遷史

<研究目的>

大きな目的は「ヒトとはどういう生物か」を知ることである。それには多面的・多角的な調査が必要となるが、私の場合は、地球における人類の起源と進化という面に興味を持ってアプローチしている。人類の進化を研究するには、進化の道筋をたどる具体的な資料であり、様々な生命・生命体情報の宝庫として「化石となった生」とも言える古人骨を対象とした研究が不可欠である。そうした研究においては、資料の「古さを特定し、編年をおこなう」ことは「古人骨からのわかること」への基盤情報をなす。以上の観点と興味から、主に上記の3つのテーマで研究をおこなっている。

◆教育内容

以下の授業を担当するとともに、主に自然人類学に関する研究を指導した。

<学部>

- 自然人類学 (全学共通科目)
- 基礎ゼミ (全学共通科目)
- 生物人間論 (生活科学部共通科目)
- 人類進化史 (生活科学部専門科目)
- 人間・環境科学実験実習 (生活科学部専門科目)
- 人間・環境科学演習 (生活科学部専門科目)
- 人類科学演習 (生活科学部専門科目)

<大学院>

- 人類進化学特論演習 (ライフサイエンス専攻)
- 生物人間科学演習 (ライフサイエンス専攻)

◆Research Pursuits

The main purpose of my research is to understand the uniqueness of our species, "why a human", and there should be diversified and many-faceted attacks to this problem. I have been approaching this problem from the palaeoanthropological and evolutionary perspectives, especially through working on human skeletal remains which provide many and various information for the reconstruction of life and the human career. More specifically, my main research subjects at present are as follows: i) human evolution and origins with special reference to the geochronological backgrounds, ii) dating of fossil bones, iii) chronology and palaeoanthropology of the Indonesian fossil hominids and the Japanese Palaeolithic hominids.

◆共同研究可能テーマ

・化石骨の年代測定（特に炭素 14 年代の前処理法）に関する研究

◆将来の研究計画・研究の展望

現在得ている主な日本学術振興会科学研究費補助金には、基盤 (A)「世界文化遺産サンギラン遺跡出土古人類化石の評価にかかる年代学的検証」(代表者)、基盤 (S)「更新世から縄文・弥生期にかけての日本人の変遷に関する総合的研究」(分担者)がある。前者では、ジャワ原人の年代論争について、現地調査を通してその検証をおこない、東アジアにおける人類進化史の解明をめざす。後者では日本の旧石器時代人骨の再評価と編年の再検討を進めることによって、日本人の起源に大きく関与する縄文時代人の起源と形成史を考察したい。

◆受験生等へのメッセージ

受験準備としては「理系パターン」「文系パターン」への対処は必要であるが、そもそも理系・文系というのは受験区分であり、学問にそうしたレッテルを貼る必要はない。入学後は、「自分は理系（あるいは文系）」などという枠を自らはめることなく、広く「リベラル・アーツ」を身につけてほしいと思う。

◆Educational Pursuits

In the school year of 2006, I supervised graduation studies mainly on physical anthropology, and instructed classes such as introduction to physical anthropology, general human biology, human evolution, experiment and training on human-environmental sciences, seminar on human biological studies, special training on evolutionary anthropology, and some other lectures or seminars.